研究課題別事後評価結果

１．研究課題名：　人間と AI の双方に扱いやすいことばの単位の創出

２．個人研究者名

平岡　達也（富士通（株）富士通研究所　研究員）

３．事後評価結果

本研究課題は、AI が扱いやすい言葉の単位を発見する機械学習の手法開発、人間と AI が扱いやすい言葉の単位の比較・分析、そしてその結果を用いた自然言語処理ツールの開発という三つの目標を設定し、それぞれに対して優れた成果をあげた。初期の手法開発は予定通りに達成し、さらに発展的な研究も進行中で、AI の性能向上に対する大きな貢献が期待できる。また、人間と AI の言葉の扱いやすさの比較・分析についても、アノテーションデータの収集と統計的分析を行い、その結果を基に新たなツールの開発に成功している。言語学的な観点からの分析については、外部の研究者との連携を通じて引き続き取り組んでおり、今後の進展が期待される。ツールの開発についても、分析結果の一部を用いた初期段階のものが完成しており、今後の改良と公開が待たれる。

本研究課題は、人間と AI の違いを明らかにする取り組みでもあり、サイトビジットや領域会議においては、本研究課題を中心とした議論が展開し、評価者を含めた参加者にとって大きな刺激になった。以上の結果から、本研究は高く評価でき、引き続きの研究活動に期待したい。